

橋梁名	橋梁名(カナ)	路線名	架設年次 (西暦)	橋長 (m)	幅員 (m)	点検記録	
						判定区分	所 見 等
中の橋	ナカハシ	中の橋通り線	2008年	70.8	12.8	I	橋脚梁部の雨がかかり部に遊離石灰を伴うひびわれが見られる。雨水の浸透は継続的であり剥離等進行する可能性はあるが、次回点検まで支持機能に影響はない。
新坂橋	シンザカハシ	新坂七日市線	不明	4.2	5.9	II	床版打ち継ぎ箇所に橋面水の浸透による錆汁を伴う遊離石灰が見られる。現段階では荷重支持に影響はないものの、継続的な漏水で内部鉄筋の腐食が進行し、支持機能が低下する可能性があるため、損傷原因の排除が必要。
市民会館東ガード橋	シミンカイカンヒガシガードハシ	記念グラウンド線	不明	4.8	6.8	I	頂版に乾燥収縮や橋面水の浸透が見られる。前回点検よりわずかに進行が見られるが、次の点検までに支持機能の低下や第三者被害者が生じる可能性は低い。
スポーツセンター線 1 号橋	スポーツセンターセンイチゴウキョウ	スポーツセンター線	不明	6.1	4.9	I	床版下面にうきが見られる（1箇所）。前回点検から進行はなく車両の載荷が少ない端部の損傷であるため、次回点検までに支持機能に影響はない。
上中の畑橋	カミナカハタハシ	武道線	2001年	22.1	7.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検より進行はなく、支持機能に影響はない。
中の畑橋	ナカハタハシ	武道線	1999年	29.0	7.0	I	横桁定着部に乾燥収縮等が原因と推定されるひびわれ、うきが見られる。前回点検から進行はなく、次回点検までに鋼材の定着に影響はない。
真人橋	マトハシ	荻袋線	1996年	62.0	10.5	III	桁端部の耐候性鋼材に伸縮装置からの漏水による板厚減少を伴う腐食が見られる。耐傾構にわずかに欠損が見られ、支持機能が低下しているため補修が必要である。
新久保橋	シンクボハシ	筏小松川線	1990年	31.0	7.0	I	下部工に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検より進行はなく、支持機能に影響はない。
公園橋	コウエンハシ	大森白山下線	1982年	46.4	5.6	III	P1 沓座モルタルに乾燥収縮が原因と推定される欠損が見られる。支承下面まで生じており、支承本体の支持機能が低下しているため早期の補修が必要である。
昼川橋	ヒルカワハシ	上野昼川線	1973年	31.0	6.5	III	支障アンカーボルトに脱落が見られる（1基）。水平力の支持機能が喪失しており、地震により落橋や路面の段差が生じる可能性があるため、早期の補修が必要である。
西走橋	ニシハシリハシ	船沼堤防線	1969年	13.5	3.0	I	外桁下面に側面からの伝い水による遊離石灰を伴うひびわれ、間詰床版に橋面水の浸透による遊離石灰が見られる。前回点検から進行は見られず、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
下八卦橋	シモハツケイハシ	八卦線	1969年	13.5	3.0	I	橋台堅壁に凍害による剥離が見られる。中桁の橋座に生じており、今後の進行により支持機能が低下する可能性があるものの、現段階では前回点検から進行はないため、経過観察とする。
下八卦 2 号橋	シモハツケイニゴウキョウ	八卦石持川線	1969年	13.6	3.0	II	橋台端部の雨がかかり箇所に凍害による剥離、遊離石灰が見られる。前回点検から進行しており、今後、中桁支点部に進行した場合、支持機能が低下する可能性があるため、予防保全の観点から補修が必要である。
油川 8 号橋	アブラカワハチゴウキョウ	東桜森 2 号線	1974年	13.6	3.0	I	橋座および胸壁端部に凍害による剥離・鉄筋露出が見られる。中桁支点部に剥離が進行した場合、支持機能が低下する可能性があるため、経過観察とする。
大面橋	オオオモテハシ	杉村大面線	1974年	13.5	3.6	I	間詰床版に橋面水の浸透による錆汁を伴う遊離石灰が見られる。主桁鉄筋の腐食による支持機能が低下が懸念されるが、前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため、経過観察とする。
油川 1 5 号橋	アブラカワジユゴウキョウ	下高口上田村線	不明	14.1	5.5	III	主桁（A1G3 支点部）垂直補剛材に伸縮装置からの漏水による欠損が見られる。
烏頭橋	ウトハシ	大橋田町線	1975年	13.5	7.0	II	主桁下面に橋面水の浸透によるうき、ひびわれが見られる。前回点検から著しい進行は見られないものの中桁や支間中央の損傷が進行した場合、支持機能が低下する可能性があるため、損傷原因の排除が必要である。
大黒沢橋	オオクロサワハシ	上畑滝ノ下線	1978年	13.6	5.0	II	支障に腐食によるアンカーボルトのゆるみが見られる。前回点検から確認されており、支承機能が低下しているため補修が必要である。
鷹の巣橋	タカノハシ	柵台線	1979年	13.5	4.0	I	橋台に遊間からの漏水が見られる。凍害やひびわれ等は生じておらず、支持機能に影響はない。
杉沢 1 号橋	スギサワイチゴウハシ	中杉沢 2 号線	1981年	13.6	4.4	I	外桁に側面からの伝い水による遊離石灰を伴うひびわれ、剥離が見られる。前回点検から著しい進行はなく、車両の載荷がない外桁であるため、経過観察とする。
武道橋	フドウハシ	武道小安沢線	1983年	13.6	5.0	I	主桁に流下物の衝突が原因と推定される欠損が見られる。支持機能に影響はない。
頭無幹排 1 1 号橋	カシラナシカンパイジユイチゴウハシ	赤川 3 号線	不明	13.6	3.0	I	橋台堅壁に遊間からの漏水が見られる。剥離等の損傷はなく支持機能に影響はない。
厨川 7 号橋	クリヤガワナナゴウハシ	川原保十二牲線	不明	13.5	5.0	I	間詰床版に橋面水の浸透による遊離石灰が見られる。前回点検から進行はなく、主桁に凍害やひびわれ等は生じておらず、支持機能に影響はない。
簗田釜ノ川線 1 号橋	カゴタカマノカワセンイチゴウキョウ	簗田釜ノ川線	不明	13.7	5.5	I	外桁下面に側面からの伝い水による遊離石灰を伴うひびわれが見られる。前回点検から進行しているものの、車両の載荷がなく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
頭無幹排 1 0 号橋	カシラナシカンパイジユウゴウハシ	三本柳森崎線	不明	13.6	5.6	I	床版間詰めに橋面水の浸透による漏水が見られる。凍害やひびわれ等は生じておらず、支持機能に影響はない。 ※前回点検で下部工としていた部材を護岸に変更

下桜沢新町線 2 号橋	シモサクラザ`ワシンマチセン ニコウキョウ	下桜沢新町線	不明	13.7	6.5	I	頂版端部に伝い水による遊離石灰を伴うひびわれ、剥離が見られる。前回点検から進行しているものの、車両の 載荷による疲労がなく、支持機能に影響はないため、経過観察とする。
開 1 号橋	ヒラキイチゴウキョウ	黒川田ノ植線	不明	13.6	7.0	I	翼壁に法面の土砂流出等が原因と推定される間隙が見られる。前回点検から進行はなく、現段階では路面に変状（橋台背面の舗装ひびわれや路面の陥没）が生じていないため、経過観察とする。
広野橋	ヒロノバシ	広野線	1968年	12.5	2.7	Ⅲ	橋台堅壁に劣化および摩耗による剥離や玉石が露出、支点部前面に凍害によるうきが見られ、橋台全体の支持機能が低下している可能性がある。損傷が進行した場合、安全性を確保できないため、早期の対策が必要である。
大巻橋	オオマキバシ	大巻北部線	1969年	12.5	4.3	I	堅壁に乾燥収縮によるひびわれ、凍害による剥離が見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支点部の支持機能に影響はない。
上三ツ屋橋	カミツヤバシ	睦合造山線	1969年	12.6	7.4	Ⅱ	間詰床版に橋面水の浸透による錆汁を伴う遊離石灰が見られる。主桁の内部鉄筋が腐食し、支持機能が低下する可能性があるため、予防保全の観点から損傷原因の排除が必要である。
油川 1 4 号橋	アブラカワジ`ユウゴンゴウ キョウ	柏木向線	1971年	12.5	4.0	I	G1桁下面に伝い水による遊離石灰を伴うひびわれ、剥離が見られる。前回点検から進行しているものの、車両の 載荷がなく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
油川 1 1 号橋	アブラカワジ`ユウイチゴウ キョウ	上桜森一ノ関線	1971年	12.6	4.0	I	橋台に凍害による剥離が見られる。前回点検から進行はなく、次回点検までに支点部の支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
上湯奈川橋	カミユナガワバシ	羽場南線	1979年	12.5	5.6	Ⅱ	G17桁に沈下が見られる。また、桁下面に新たに遊離石灰を伴うひびわれが確認された。現段階で車両の走行に影響はなく、路面の凹凸等も見られないため経過観察とする。
野崎橋	ノザ`キバシ	野崎線	1984年	12.6	4.5	I	兄弟堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検よりひび割れ本数は増加しているものの軽微であり、支持機能に影響はない。
大屋川橋	オオヤカ`ワバシ	横手平鹿増田線	1986年	12.5	8.0	Ⅱ	伸縮装置の後打ちコンクリートに凍害等による剥離が見られる。補修が繰り返されているものの剥離は継続しており、車両の走行に影響があるため補修が必要である。
館ノ下橋	タテナ`タバシ	堤防雄物川北小学校線	1997年	12.5	5.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、支持機能に影響はない。
樋脇橋	トヨ`キハシ	沼下中野本線	1997年	12.6	6.0	I	間詰床版に橋面水の浸透による遊離石灰が見られる。主桁に凍害やひびわれ等は生じておらず、支持機能に影響はない。
南田橋	ミナミ`タバシ	南田石持川線	1997年	13.0	6.0	I	床版間詰に橋面水の浸透による遊離石灰が見られる。主桁に凍害やひびわれ等は生じておらず、支持機能に影響はない。
水越橋	ミス`コシハシ	水越樋脇線	1997年	12.5	6.0	I	翼壁端部に凍害や車両等の衝突による欠損が見られる。前回点検から進行はなく支持機能に影響はない。
藤根橋	フジ`ネバシ	十五野野村線	2001年	13.2	12.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく支持機能に影響はない。
笹崎寺内 2 号橋	ササザ`キテラウチニコウ`ハ シ	大屋寺内2号線	不明	12.6	3.5	I	横桁にひび割れが見られる（1箇所）。前回点検と同様の損傷であり、次回点検までに支持機能に影響する可能性は低いため、経過観察とする。
弥勒ほたる橋	ミロクホタルハシ	弥勒角代沢線	2007年	12.5	4.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく支持機能に影響はない。
橋場橋	ハシバ`バシ	甲下夕村線	1966年	12.5	4.0	I	橋台に遊間からの漏水が見られる。凍害やひびわれ等は生じておらず、支持機能に影響はない。
鶴巻橋	ツルマ`キハシ	新坂七日市線	不明	12.8	4.1	I	遊間からの漏水により橋座に剥離が見られる。前回点検から進行はなく、次回点検までに支持機能に影響はないため、経過観察とする。
吉沢橋	ヨシザ`ワバシ	吉沢追廻線	不明	12.6	4.2	I	床版間詰に錆汁を伴う遊離石灰が見られる。前回点検で錆汁は確認されておらず、主桁の鉄筋腐食が進行したと想定されるものの部分的であり、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
大島 1 号橋	オオジ`マイチゴウハシ	黒川田ノ植線	不明	12.6	5.5	I	パイルベント橋台の梁部にかぶり不足および遊間からの漏水が原因と推定される剥離・鉄筋露出が見られる。前回点検から進行はなく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
豊前中島線 4 号橋	ブ`ゼンナカジ`マセンヨンゴ`ウ キョウ	豊前中島線	不明	12.5	5.6	I	床版間詰に橋面水の浸透による漏水・遊離石灰が見られる。主桁下面に凍害やひびわれ等は生じておらず、支持機能に影響はない。
樋ノ口柳持線 2 号橋	ヒノクチャナギ`モチセンニコ`ウ キョウ	樋ノ口柳持線	不明	13.2	6.5	I	頂版端部に伝い水による錆汁を伴う遊離石灰、ひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
上法寺川 4 号橋	ジョウホ`ウジガ`ワヨンゴウ キョウ	藪沢目上法寺線	不明	12.6	7.0	I	伸縮装置に除雪時の接触による変形が見られる。前回点検から進行はなく、現段階では車両走行に影響はないため、経過観察とする。
堂ヶ沢橋	ドウガ`サワバシ	横手平鹿増田線	不明	12.6	8.2	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。

十五野新田橋	ジユウゴノシンテンバシ	三重植田線	不明	12.6	10.0	I	主桁下面にひびわれ、剥離・漏水が見られる。前回点検から進行はしているものの、損傷は車両の載荷がない位置であり、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
清水沢川4号橋	シミス [△] サワヨングウキョウ	旭川金沢線	2005年	13.3	10.2	I	上部構造、下部構造、支承部、伸縮装置は健全である。
頭無幹排9号橋	カシラナシカンハイキュウゴウハシ	条里跡般若寺線	不明	13.4	11.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
下川原橋	シモカシラバシ	堤防下川原線	1953年	11.5	3.0	I	橋台堅壁にジャンカおよび河川流水の摩耗による剥離が見られる。全面に生じているものの、前回点検から大きく進行はなく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
阿美多地橋	アマダチバシ	阿美多地線	1965年	12.0	6.0	I	間詰床版の拡幅部遊間および地覆側面から伝い水による遊離石灰が見られる。範囲は拡大しているものの、錆汁の滲み出しや主桁下面の凍害およびひびわれ等は生じておらず、現段階で支持機能に影響はない。
男鹿野橋	オガノバシ	三又岩井川線	1966年	12.1	6.0	I	橋台堅壁に遊間からの漏水による剥離、うきが見られる。橋座付近には進行しておらず、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
大排1号橋	ダイハイイチゴウキョウ	袴形板井田線	1971年	12.1	8.1	III	主桁端部垂直補剛材に腐食、欠損が見られる。荷重支持力の低下による前屈の可能性がある。また、支承アンカーボルトに脱落が生じていて、支承の機能不全が生じている。早期の補修が必要である。
回館橋	マワリタテバシ	回館東里西線	1972年	11.6	3.0	II	主桁下面に橋面水の浸透や疲労によるひびわれが見られる。前回点検から車両の載荷位置に拡大しており、今後の進行が予測される。上部工の耐力力が低下する可能性があるため、補修が必要である。
県先橋	ケンサキバシ	松田縦断線	1972年	12.0	5.6	III	支承本体に伸縮装置からの漏水により層状の錆が見られ、アンカーボルトのナットが喪失している。地震時の荷重支持機能が低下しているため、早期の補修が必要である。
七滝川4号橋	ナナタキガワヨングウキョウ	二井山上溝線	1991年	12.2	7.5	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれ箇所、遊間からの漏水が滲み出している。錆汁等は見られず、内部鉄筋の腐食は進行していないと推定され、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
沼山5号橋	ヌマヤマゴゴウハシ	沼山線	1994年	11.7	4.0	I	翼壁端部に経年劣化による剥離が見られる。支持機能に影響はない。
沢口観音橋	サワグチカンノンバシ	横手平鹿増田線	1994年	11.6	8.3	I	伸縮装置後打ちコンクリートに経年劣化等による剥離が見られる。損傷は進行しているものの、現段階では車両の走行に影響はないため、経過観察とする。
上根岸橋	カミネギシバシ	本町根岸町線	1996年	12.0	7.3	I	伸縮装置に除雪時の接触による変形が見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、車両の走行に影響はないため、経過観察とする。
清水沢橋	シミス [△] サワバシ	羽黒清水沢線	1994年	12.3	8.5	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
八幡下下根木野線1号橋	ハチマンシタシモノネッコノセンイチゴウハシ	八幡下下根木野線	2000年	12.0	5.5	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
桧の沢橋	ヒノサワバシ	桧の沢線	不明	11.5	1.9	III	木製床版に経年劣化による腐朽・抜け落ちが見られる。山間地の農地で歩行者の利用は少ないものの、第三者被害防止の観点から早期の補修が必要である。
六日町後新堀線1号橋	ムイカマチウシロシンホリセンイチゴウキョウ	六日町後新堀線	不明	11.5	4.0	I	橋台堅壁および橋座に凍害による剥離が見られる。外桁支点付近の損傷であるものの、前回点検から進行はなく、床版橋のため次回点検までに支持機能が低下する可能性は低く、経過観察とする。
頭無幹排12号橋	カシラナシカンハイジユウニゴウガシ	赤川2号線	不明	11.5	4.0	I	間詰床版に側面からの伝い水による遊離石灰が見られる。前回点検から進行はなく、凍害やひびわれ等は生じていないため、支持機能に影響はない。
小野塚丘見線1号橋	オノヅカオカミセンイチゴウキョウ	小野塚丘見線	不明	11.5	4.0	I	G8桁下面に橋面の浸透水や疲労によるひびわれが見られる。車両の載荷位置であり前回点検から進行しているものの、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
孫太郎橋	マゴタロウバシ	男鹿野線	不明	11.8	4.1	I	橋台前面に凍害による剥離が見られる。前回点検から進行はなく、次回点検までに支点部の支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
清水橋	シミス [△] バシ	清水線	不明	12.0	1.9	III	木製床版に経年劣化による腐朽、抜け落ちが見られる。山間地の農地で歩行者の利用は少ないものの、第三者被害防止の観点から早期の補修が必要である。
一本杉桑ノ木線1号橋	イツホンスギクワノキセンイチゴウキョウ	一本杉桑ノ木線	不明	11.5	5.0	I	上部構造、下部構造、支承部、伸縮装置は健全である。
赤川橋	アカガワバシ	赤川6号線	1970年	11.5	6.1	I	橋台堅壁に河川水や流下物による摩耗等が原因と推定される剥離が見られる。前回点検から進行してはいるものの、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
清水沢3号橋	シミス [△] サワサンゴウキョウ	城南1号線	不明	11.7	6.0	I	主桁下面に剥離が見られる（1箇所）。前回点検から進行はなく、経過観察とする。
頭無幹排7号橋	カシラナシカンハイナナゴウハシ	静町赤坂線	不明	11.6	7.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。

三貫堰 2 号橋	サンガンセ`キノゴ`ウハシ	厨川御所野線	不明	11.6	9.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
婦気橋	フケハシ	駅西線	不明	11.5	16.3	II	右側歩道部の橋台に経年劣化や浸透水が原因と推定される幅2mmのひびわれが見られる。今後、進行した場合、歩道部の支持機能が低下し、路面の段差等生じる可能性があるため、予防保全の観点から補修が必要である。
南形橋	ナンカタハシ	雄物川東西線	1963年	11.4	6.5	II	橋台堅壁（水衝部）全面に摩耗等による剥離、洗堀が見られる。水衝部のため損傷は進行すると予測され、支持機能の低下および橋梁全体の安全性が低下する可能性があるため、予防保全の観点から補修が必要である。
地竹川 5 号橋	ジ`タケガ`ワゴ`ウキョウ	大沢南3号線	1970年	11.4	3.0	I	床版間詰に側面からの伝い水および橋面水の浸透による遊離石灰が見られる。凍害やひびわれ等は生じておらず、支持機能に影響はない。
地竹川 6 号橋	ジ`タケガ`ワロクゴ`ウキョウ	大沢南部4号線	1970年	11.4	3.1	I	橋台橋座端部に凍害による剥離が見られる。雨がかり部のため損傷の進行が予測されるが、次回点検までに支点部の支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
名古屋前橋	ナゴ`マエハシ	山崎太田線	1970年	11.0	4.6	II	橋台に凍害による剥離が見られる。前回点検から進行はないものの、橋座端部の剥離は支承部前面まで見られる。今後の進行により、支点部の支持機能が低下する可能性があり、予防保全の観点から補修が必要である。
藤巻橋	フジ`マキハシ	土井尻線	1971年	10.4	5.5	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
芦沢橋	アシザ`ワハシ	留長根本木線	1971年	10.5	7.0	I	伸縮装置の経年劣化による変形が見られる。前回点検から進行はなく、車両の走行に影響はないため、経過観察とする。
柴橋	シバハシ	滝ノ上小山線	1987年	10.9	5.7	I	伸縮装置に除雪時の接触等による変形が見られる。車両の走行に影響はなく軽微であるため、経過観察とする。
知恵ヶ沢橋	チエガ`サワハシ	牛ヶ沢猿田線	1989年	10.4	7.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
出向 4 号橋	イテムカイヨンゴ`ウキョウ	旭町中島線	1994年	11.4	10.5	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
古向橋	フルムカイハシ	道地堤防線	1997年	10.5	5.0	I	間詰床版に側面からの伝い水による遊離石灰が見られる。前回点検から進行はなく、凍害やひびわれ等は生じおらず、支持機能に影響はない。
太田橋	オオタハシ	寺内八景田線	1997年	10.5	7.0	I	伸縮装置の後打ちコンクリートに凍害等による剥離が見られる。前回点検と同様の損傷であり、車両の走行に影響はないため、経過観察とする。
柴 2 号橋	シパ`ニゴ`ウキョウ	滝ノ上小山線	2003年	11.4	6.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
頭無幹排 6 号橋	カシラナシカンパイロクゴ`ウハシ	上長田赤坂線	2004年	11.5	11.0	I	主桁下面に橋面水の浸透が原因と推定されるひびわれが見られる（1箇所）。前回点検から進行はなく、部分的で軽微であるため、経過観察とする。
頭無幹排 8 号橋	カシラナシカンパイハチゴ`ウハシ	城野岡三本柳線	不明	10.4	3.0	I	間詰床版に側面からの伝い水による遊離石灰が見られる。主桁下面に凍害やひびわれ等は生じおらず、支持機能に影響はない。
頭無幹排 5 号橋	カシラナシカンパイゴ`ゴ`ウハシ	後野上長田線	不明	11.5	3.0	I	遊間からの漏水により橋台に見られる。漏水が原因の凍害やひびわれ等は生じておらず、支持機能に影響はない。
大島 2 号橋	オオジ`マニゴ`ウハシ	塚堀北1号線	不明	11.4	3.0	I	間詰床版に側面からの伝い水による遊離石灰が見られる。錆汁が見られるが部分的であり、漏水が原因の凍害やひびわれ等は生じていないため、支持機能に影響はない。
笹崎寺内 1 号橋	ササザ`キテラウチイチゴ`ウハシ	笹崎線	不明	11.4	3.2	I	間詰床版に側面からの伝い水による遊離石灰が見られる。凍害やひびわれ等は生じおらず、支持機能に影響はない。
開橋	ヒラキハシ	家西線	不明	10.5	3.3	II	主桁に経年劣化および遊間からの漏水による腐食が見られる。桁端部はわずかに板厚減少を伴っており、欠損に進行した場合、支持機能が低下する可能性があるため、予防保全の観点から補修が必要である。
田村堰橋桑ノ木線 1 号橋	タムラセ`キハシクワノキセンイチゴ`ウキョウ	田村堰橋桑ノ木線	不明	11.4	3.5	I	外桁下面に側面からの伝い水が原因の凍害が生じており、剥離・鉄筋露出が見られる。前回点検から大きく進行はなく、車両の載荷がないため次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
林崎上猪岡線 1 号橋	ハヤシザ`キカミノオカセンイチゴ`ウキョウ	林崎上猪岡線	不明	11.5	4.0	I	橋台に遊間からの漏水による遊離石灰の析出が見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
新平川北大清水線 1 号橋	シン`ペイガ`ワキタオオシミズイチゴ`ウキョウ	新平川北大清水線	不明	11.4	4.0	II	主桁下面および間詰床版にうき、ひびわれ、遊離石灰が見られる。うきは主桁の車両の載荷位置にも広がっていて、進行により耐荷力が低下、路面の沈下が生じる可能性があるため補修が必要である。
新平川南大清水線 1 号橋	シン`ペイガ`ワミナミオオシミス`センイチゴ`ウキョウ	新平川南大清水線	不明	11.4	4.0	I	間詰床版に橋面水の浸透および側面からの伝い水による遊離石灰が見られる。凍害やひびわれ等は生じおらず、支持機能に影響はない。
河前橋	カワマエハシ	大屋寺内5号線	不明	10.6	6.0	II	主桁下面に橋面水の浸透による遊離石灰を伴うひびわれが見られる。車両載荷位置のG2からG5桁の全長に生じており、損傷の進行で耐荷力低下や路面沈下が生じる可能性があるため、補修が必要である。

桑木下村線 1 号橋	クワノキシモムラセンイチゴウキョウ	桑木下村線	不明	10.9	6.2	I	橋台のパイルベント杭（1本）に経年劣化によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、経過観察とする。
頭無幹排 4 号橋	カシラナシカンパイヨンゴウハシ	下谷地添八幡線	不明	11.5	8.0	I	橋台胸壁（橋面）に車両等衝突による欠損が見られる。支持機能に影響はない。
駅西 1 0 号橋	エキニシジュウゴウハシ	駅西6号線	不明	11.4	8.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
南野橋	ミナミノハシ	南野線	1965年	9.6	4.0	I	床版間詰に橋面水の浸透による遊離石灰が見られる。凍害やひびわれ等は生じていないため、支持機能に影響はない。
中島二号橋	ナカシマニゴウキョウ	平野沢線	2012年	14.8	7.0	I	床版間詰に表面水の浸透による遊離石灰が見られる。鋼部材に腐食は生じていないため、支持機能に影響はない。
松澤 1 号橋	マツサワイチゴウキョウ	土場線	1967年	10.5	4.0	II	主桁下面に橋面水の浸透および側面からの伝い水による遊離石灰を伴うひびわれが見られる。車両が載荷する中桁にも生じており、今後の進行により支持機能が低下する可能性があるため、補修が必要である。
山荘橋	サンソウハシ	真人山荘線	不明	9.4	6.0	I	外桁下面に側面からの伝い水が見られる。凍害やひびわれ等は生じていないため、支持機能に影響はない。
三ヶ村堰 1 0 号橋	サガムラセキジュウゴウキョウ	小中島支線	1970年	10.1	6.5	I	伸縮装置に経年劣化によるゴム材の変形・欠損、路面の凹凸が見られる。現段階で車両の走行に大きく影響はないため、経過観察とする。
地竹川 2 号橋	ジタケガワニゴウキョウ	大沢南部4号線	1971年	9.5	3.0	I	橋台の橋座端部に凍害による剥離が見られる。雨がかり箇所のため。損傷の進行が予測されるが、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
十三塚橋	ジュウサンヅカハシ	回館東部線	1972年	10.4	1.9	II	主桁下フランジに凍害による剥離・鉄筋露出が見られる。剥離範囲は進行しており、桁全長に進行した場合、支持機能が低下する可能性があるため、予防保全の観点から補修が必要である。
大排 3 号橋	ダイハイサンゴウキョウ	タモノ木東線	1972年	9.6	4.2	I	主桁に桁間からの漏水等が原因と推定されるひびわれ、うき、剥離・鉄筋露出が見られる。前回点検から進行はなく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
上法寺川 2 号橋	ジョウホウシガワニゴウキョウ	長持線	1976年	10.0	5.0	I	外桁下面に側面からの伝い水が見られる。凍害やひびわれ等は生じていないため、支持機能に影響はない。
地竹川 8 号橋	ジタケガワハチゴウキョウ	堂ノ下南線	1988年	9.4	5.0	I	外桁の下フランジに流下物等の衝突が原因と推定される欠損が見られる。支持機能に影響はない。
七滝川 2 号橋	ナナタキガワニゴウキョウ	二井山上溝線	1990年	9.8	7.0	I	主桁下面に流下物等の衝突が原因と推定される欠損が見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、現段階で支持機能に影響はない。
橋野沢橋	ハシノサワハシ	筏小松川線	1997年	9.5	8.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひび割れが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
杉沢川橋	スキサワガワハシ	見入野谷地中線	2004年	9.5	5.5	III	支承下面に凍害等による欠損（空洞）が見られ、アンカーボルトが脱落している荷重支持機能の低下および地震時水平力の支持機能が喪失しているため早期の補修が必要である。
新屋敷橋	アラヤシキハシ	赤川新屋敷線	不明	10.4	2.8	I	橋台橋座に凍害や流下物等の接触が原因と推定される剥離が見られる。橋座前面の損傷であり、次回点検までに支点部の支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
大堤沢 1 号橋	オオツツミサワイチゴウキョウ	橋野沢線	不明	9.5	3.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、支持機能に影響はない。
野黒沢橋	ノグロサワハシ	貝沢松沢線	不明	10.0	4.0	I	沓座モルタルに施工不良による欠損が見られる。床版橋の端部であり、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
下簗田桶清水線 1 号橋	シモカゴタオケシミスンイチゴウキョウ	下簗田桶清水線	不明	10.4	4.5	I	橋台橋座端部に凍害による剥離が見られる。前回点検から著しい進行はなく、次回点検までに支点部の支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
持田橋	モチダハシ	柳田駅通り線	不明	10.2	5.0	I	橋台堅壁に間詰床版および側面からの漏水が原因と推定される遊離石灰を伴うひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であり、現段階で支持機能に影響はない。
樽見内蛭野線 1 号橋	タルミナイヒルノセンイチゴウキョウ	樽見内蛭野線	不明	10.3	5.1	I	頂版に側面からの浸透水や経年劣化によるうき・ひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、現段階で支持機能に影響はない。
掬下都線 2 号橋	ハバシモミヤコセンニゴウキョウ	掬下都線	不明	10.0	5.5	I	外桁下面に側面からの伝い水による剥離・鉄筋露出が見られる。水切り箇所で行進が予測されるものの、車両の載荷がなく、次回点検までに支点部の支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
沢口橋	サワグチハシ	真人半助線	不明	10.2	6.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれ、凍害によるうきが見られる。次回点検までに支点部の支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
若宮 2 号橋	ワカミヤニゴウキョウ	下根田百万刈線	不明	9.5	6.0	I	床版下面に経年劣化や乾燥収縮によるひびわれが見られる。損傷は進行しているものの部分的であり、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。

三貫堰 1 号橋	サンガンセ ^キ イチゴ ^ウ ハシ	三貫堰十二牲線	不明	10.3	6.2	I	床版間詰に橋面水の浸透による遊離石灰が見られる。部分的で軽微であり、凍害やひびわれが生じていないため、支持機能に影響はない。
平鹿堰橋	ヒラカセ ^キ ハシ	平真線	1962年	9.5	6.5	I	主桁下面にかぶり不足および橋面水の浸透による鉄筋露出が見られる。前回点検から進行はなく軽微であるため、経過観察とする。
簗田釜ノ川線 2 号橋	カゴ ^タ カマノカワセンニゴ ^ウ キョウ	簗田釜ノ川線	不明	9.4	7.5	I	主桁下面に橋面水の浸透や経年劣化によるひびわれが見られる。車両の載荷位置に生じているものの前回点検から進行はなく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
成瀬大橋	ナルセオオハシ	横手平鹿増田線	1998年	335.0	7.2	I	主桁下面や横桁に乾燥収縮や経年劣化によるひびわれが見られる。前回点検と同様の損傷であり、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
十文字大橋	ジユウモンジ ^オ オハシ	梨木古内線	1935年	253.7	6.4	III	主桁に剝離・鉄筋露出、うき、ひび割れ、床版に遊離石灰を伴うひびわれ、うきが見られる。前回点検より進行しており、現段階で耐荷力が低下している可能性があるため、早期の補修が必要である。
祇園寺大橋	キ ^オ ンジ ^オ オハシ	旭川金沢線	2005年	122.0	7.0	II	主桁端部（耐候性鋼材）に伸縮装置からの漏水が原因と推定される腐食が生じている。前回点検から腐食範囲が拡大し板厚減少を伴っており、予防保全の観点から補修が必要である。
新旭川橋	シンアサヒカワハシ	旭川金沢線	1999年	71.0	8.8	II	落橋防止装置のボルトにゆるみ・脱落が見られる。落橋防止機能が低下しているため補修が必要である。
碓大橋	イカリオオハシ	朝倉線	1970年	70.2	6.0	II	横桁（塗装塗替え箇所）に側面からの漏水により再度、腐食、欠損が生じている。前回点検から腐食範囲が拡大しており、欠損が拡大した場合、荷重伝達機能が低下するため、予防保全の観点から補修が必要である。
和野橋	ワハシ	上和野下根田線	1968年	60.0	2.5	III	主桁下フランジおよび垂直補剛材に側面からの漏水による腐食、欠損が見られる。支点部の支持機能が低下しており、早期の補修が必要である。
百万刈 1 号橋	ヒヤクマンガ ^リ イチゴ ^ウ キョウ	下和野落合線	1968年	60.0	3.0	III	主桁下フランジおよび垂直補剛材に遊間からの漏水による腐食、欠損が見られる。支点部の腐食が欠損に進行しており、支持機能が懸念されるため、早期の補修が必要である。
湯ノ島橋	ユノシマハシ	湯の島線	1993年	58.1	4.5	I	主桁下面にひびわれ、うきが見られる。次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
本郷橋	ホンゴ ^ウ ハシ	平和町本郷線	1958年	56.0	6.0	III	A1G1支承サイドブロックに疲労や腐食による破断が見られる。前回点検の亀裂が進展した損傷で、地震時水平力の支持機能が低下しており、他支承の損傷や主桁の脱落が生じる可能性があるため、早期の補修が必要。
板井沢橋	イタイザ ^ワ ハシ	板井沢土洩線	1978年	55.9	5.0	I	床版に疲労や橋面水の浸透による漏水を伴う床版ひびわれが生じている。前回点検から進行はなく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
頭無幹排 1 5 号橋	カシラナシカンハイジユウゴ ^ウ ハシ	水越下中島線	1981年	16.6	4.5	I	主桁下面に経年劣化や橋面水の浸透が原因と推定されるひびわれが見られる。車両の載荷位置であるものの部分的な損傷で、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
大沢大橋	オオサワオオハシ	嶽鼻回立線	1976年	54.5	4.0	I	橋脚梁部下面に乾燥収縮や雨水の浸透による遊離石灰を伴うひびわれが見られる。遊離石灰の析出が継続しているものの、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
軽井沢橋	カルイザ ^ワ ハシ	板井沢土洩線	1988年	50.9	7.0	I	伸縮装置に除雪時の接触等による変形が見られる。軽微であり車両の走行に影響はないため、経過観察とする。
根田川橋	コンダ ^ガ ワハシ	根田川中野東線	1973年	50.0	3.6	II	A1G2支承アンカーボルトにナットおよびピンチプレートの脱落が見られる。前回点検で確認されており、支承機能が低下しているため、補修が必要である。
回立橋	マツタツハシ	回立線	1981年	50.0	7.3	I	下部工に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検からひびわれ幅に進行は見られるものの、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
旭岡橋	アサヒオカハシ	旭岡嶽鼻線	1992年	50.0	4.0	I	床版下面に経年劣化や乾燥収縮が原因と推定されるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
平野沢橋	ヒラノサワハシ	武道線	1995年	49.5	7.0	I	下部工に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検からひびわれ幅が進行しているものの、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
若宮橋	ワカミヤハシ	福島下根田線	1970年	48.0	2.8	III	橋脚梁部に凍害等による剝離・鉄筋露出が見られ、P1G2支承下面が露出している。前回点検で確認されており、荷重支持機能および支承の荷重伝達機能が著しく低下しているため、早期の補修が必要である。
神明橋	シンメイハシ	文天鏡田久保線	1971年	43.8	3.0	II	P1ゴム支承に遊間の移動や腐食によるボルトのゆるみが見られる。水平力の支持機能が低下しているため、補修が必要である。
高根子橋	タカネコハシ	高根子線	1986年	43.5	5.0	I	横桁定着部に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であるため、経過観察とする。
高口下橋	タカクチシタハシ	高口下線	1977年	42.8	2.5	II	主桁垂直補剛材に地覆部遊間からの漏水による腐食、断面欠損が見られる。今後の進行により欠損が拡大し、支持機能が低下する可能性があるため、補修が必要である。
亀井沢橋	カメイザ ^ワ ハシ	横手平鹿増田線	1995年	43.0	8.0	I	床版下面に乾燥収縮によるひびわれが見られるが軽微であり、支持機能に影響はない。※前回点検後、上部工端部塗装・当て板補修・橋台ひびわれ補修・支承防錆・伸縮装置交換・橋面防水・地覆断面修復を実施

文天橋	モンテンバシ	西野文天線	1972年	42.0	2.3	Ⅱ	鋼部材全体に経年劣化による腐食が見られる。桁端部のウェブにわずかに板厚減少が生じており、今後の進行を防止するため、予防保全の観点から補修が必要である。
真山橋	シンザンバシ	町田線	1972年	41.4	5.7	Ⅰ	床版張出下面に乾燥収縮によるひびわれが見られる（1箇所）。軽微であり、支持機能に影響はない。 ※令和3年9月架け替え済み
菅生橋	スコウバシ	上吉野菅生線	1965年	39.4	4.0	Ⅲ	（第2径間）P1G1側主桁下フランジに遊間からの漏水や経年劣化による腐食、断面欠損が見られる。支点付近に生じており、支持機能が低下しているため、補修が必要である。
樽沢橋	タルサワバシ	大沢羽後線	1976年	38.6	8.5	Ⅱ	主桁端部に地覆遊間からの漏水による腐食が見られる。ウェブに部分的に断面減少が見られ、欠損に進行した場合、支点部の支持機能が低下する可能性があるため、予防保全の観点から補修が必要である。
上畑広野橋	カミハタヒロバシ	広野線	1976年	38.0	3.0	Ⅰ	橋脚柱部に雨水の浸透や乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検からひびわれ幅が拡大しているものの、次回点検までに支点部の支持機能が低下する可能性が低いため、経過観察とする。
下三明岡橋	シモサンミョウオカバシ	下三明岡線	1982年	35.8	5.0	Ⅱ	主桁端部に経年劣化および伸縮装置からの漏水による腐食が生じている。部分的に層状錆が生じており、欠損等に進行する可能性があるため、予防保全の観点から補修が必要である。
鍋ヶ澤橋	ナベガサワバシ	稗畑越上線	1956年	32.6	5.5	Ⅲ	支障アンカーボルトに橋座の凍害が原因と推定されるゆるみが見られる。前回点検で確認されており、地震時水平力の支持機能が低下しているため、早期の補修が必要である。
相野々橋	アイノバシ	相野々駅前線	1978年	32.0	4.5	Ⅱ	主桁端部、支承本体に地覆遊間からの漏水による腐食が見られる。垂直補剛材に断面減少が生じており、欠損に進行する可能性がある、支承部は層状錆や断面減少が生じ、支承機能が低下しており、補修が必要である。
新屋敷橋	アラヤシキバシ	二井山上溝線	1980年	31.5	6.2	Ⅰ	主桁に錆が見られる。部分的で軽微であり、支持機能に影響はない。 ※令和2年10月に架け替え済み
大城橋	オオシロバシ	大城線	1994年	29.5	3.0	Ⅰ	主桁端部に浸透水が原因と推定されるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であるため、経過観察とする。
落合1号橋	オチアイイチゴウバシ	黒落5号線	1973年	55.2	2.0	Ⅰ	トラス部材全体に経年劣化による錆が見られる。錆は表面的であり、現段階では支持機能に影響はない。
小栗山橋	コグリヤマバシ	小栗山線	1984年	28.6	5.0	Ⅰ	床版下面に経年劣化や乾燥収縮によるひびわれが見られる。遊離石灰の析出等は見られず、次回点検までに支点部の支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
落合橋	オイアイバシ	霜焼野線	2000年	28.9	4.0	Ⅰ	主桁端部（耐候性剛材）に伸縮装置からの漏水による腐食が見られる。層状錆が生じているものの、前回点検から進行はなく部分的であるため、経過観察とする。
新処橋	アラトコロバシ	小野沢田線	1998年	27.6	7.0	Ⅰ	横桁定着部に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく軽微であるため、経過観察とする。
兵部谷地橋	ヒョウブヤチバシ	兵部谷地線	1993年	27.2	5.0	Ⅰ	伸縮装置に除雪時の接触等による変形、経年劣化が見られる。軽微であり、車両の走行に影響はないため、経過観察とする。
上中村橋	カミナカムラバシ	鬼越線	1994年	27.0	5.0	Ⅰ	主桁下フランジ下面にうき、ひびわれが見られる。支間中央に生じている。補修跡の再劣化やうきの範囲の進行も見られるが、交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
沼山4号橋	ヌマヤマヨンゴウバシ	沼山線	1997年	26.5	6.0	Ⅰ	伸縮装置に経年劣化が見られる。現段階では漏水は生じておらず、車両の走行に影響はないため、経過観察とする。
雄勝川橋	オガチガワバシ	雄勝川線	2002年	27.0	6.0	Ⅰ	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。ひびわれ幅は拡大しているものの、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
寄木橋	ヨリキバシ	二井山上溝線	不明	27.2	7.0	Ⅰ	下部工に乾燥収縮によるひびわれが見られる。橋台はひびわれ幅が大きいものの（A1:1.0mm、A2:0.4mm）前回点検から進行はなく、現段階では支持機能に影響はない。
見入野橋	ミイリバシ	旭川金沢線	1994年	25.5	7.0	Ⅰ	主桁端部（耐候性鋼材）に伸縮装置からの漏水による腐食が見られる。層状錆が生じているものの、前回点検から進行はなく部分的であるため、経過観察とする。
桧沢橋	ヒザワバシ	平野沢線	1998年	26.4	7.0	Ⅰ	橋台堅壁に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、現段階では支持機能に影響はない。
上三明岡橋	カミサンミョウオカバシ	上三明岡線	2008年	25.5	5.0	Ⅰ	橋台堅壁に乾燥収縮等によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、現段階では支持機能に影響はない。
大穴一号橋	オオアナイチゴウバシ	小野沢田線	1966年	24.8	3.0	Ⅲ	床版に遊離石灰を伴う2方向ひびわれが見られる。前回点検からひびわれ幅・間隔が増大しており、車両の載荷位置に生じているため、今後も進行が予測される。抜け落ち等が生じる可能性があるため、早期の補修が必要。
野中橋	ノナカバシ	野中線	1980年	25.7	3.6	Ⅰ	脊座モルタルに乾燥収縮による欠損が見られる。橋座面に凍害等は生じておらず、次回点検までに支承の機能障害が生じる可能性は低いため、経過観察とする。
白石沢橋	シロイシザワバシ	旭川金沢線	1997年	24.8	7.0	Ⅰ	橋台に乾燥収縮によるひびわれ、補修跡に遊離石灰を伴うひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、現段階では支持機能に影響はない。

若神子橋	ワカミゴ ^{ハシ}	白坂天賀森線	1975年	23.9	3.5	I	床版間詰に橋面水の浸透による遊離石灰が見られ、主桁に部分的に剥離が生じている。剥離は点在しているものの軽微であり、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
明永沼橋	ミヨウエイヌマ ^{ハシ}	明永線	1980年	24.4	3.6	I	床版下面に経年劣化によるひびわれが見られる。一部2方向ひびわれが見られるが、前回点検から進行はなく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
大場沢橋	オオハ ^サ ワ ^{ハシ}	天狗沢1号線	1997年	24.0	4.0	I	主桁上フランジ下面および間詰床版に橋面水の浸透が原因と推定されるひびわれが見られる。部分的な損傷で、前回点検から進行はなく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
平成橋	ヘイセイ ^{ハシ}	大屋線	1997年	23.7	8.0	I	橋台堅壁に乾燥収縮や経年劣化によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、現段階では支持機能に影響はない。
李原橋	シノハラ ^{ハシ}	中田谷地線	2001年	23.8	6.0	I	橋台堅壁に経年劣化や乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、現段階では支持機能に影響はない。
上畑橋	カミハタ ^{ハシ}	狙半内線	1979年	23.0	7.0	I	床版下面に疲労が原因と推定される2方向ひびわれが見られる。遊離石灰の析出は見られず、交通量が少なく、前回点検から進行はない。次回点検までに抜け落ち等が生じる可能性は低いため、経過観察とする。
熊ノ堂橋	クマノウ ^{ハシ}	熊ノ堂線	1996年	22.0	5.6	I	横桁走着部に乾燥収縮によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、現段階ではPC鋼材に影響はないため、経過観察とする。
寄木1号橋	ヨリキイチゴウ ^{キョウ}	寄木中房線	1999年	22.3	6.0	I	橋台に乾燥収縮や伸縮装置からの漏水によるひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、現段階では支持機能に影響はない。
狐塚橋	キツネヅカ ^{ハシ}	根田谷地阿気桜森線	不明	4.8	5.4	I	床版下面に側面および歩車道境界からの伝い水およびかぶり不足による鉄筋露出が見られる。車道端部で車両の载荷は少なく、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
樋西橋	トヨニシ ^{ハシ}	根田谷地阿気桜森線	1960年	4.5	6.5	I	床版側面および下面に伝い水等による剥離・鉄筋露出が見られる。
江原橋	エハラ ^{ハシ}	大雄東西線	1962年	4.8	8.5	II	床版下面に側面からの伝い水等による鉄筋露出、うきが見られる。うきは車両の载荷位置に進行しており、剥離・鉄筋露出に進行した場合、支持機能が低下する可能性があるため、予防保全の観点から補修が必要である。
前堰6号橋	マエゼ ^キ ロクゴウ ^{キョウ}	新城上桜森線	1971年	4.8	6.0	I	床版下面に鉄筋露出が見られる。前回点検から進行はなく部分的であり、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
M2－7号橋	エムニノナナゴウ ^{キョウ}	八柏下村線	1974年	4.5	4.2	I	主桁および橋台に主桁間および遊間からの漏水・帯水が見られるが、ひびわれや剥離等の損傷は生じておらず、支持機能に影響はない。
M2－5号橋	エムニノゴゴウ ^{キョウ}	八柏下村線	1974年	4.5	4.2	I	主桁側面に雨水の浸透による遊離石灰を伴うひびわれが見られる。前回点検から進行はなく、支持機能に影響はない。
M2－3号橋	エムニノサンゴウ ^{キョウ}	八柏北線	1974年	4.7	7.0	I	拡幅部下部工端部に経年劣化等による剥離が見られる。前回点検から進行はなく、拡幅部の支持機能に影響はない。
柏木南橋	カシワキ ^ミ ナミ ^{ハシ}	折橋四津屋線	1974年	2.6	10.5	I	上部構造、下部構造は健全である。 ※令和6年3月架替済み（かんがい排水事業）
碓大橋歩道橋	イカリオオハシ ^ホ ウ ^{キョウ}	朝倉線	1997年	70.9	3.2	I	第1径間主桁に下面からの衝突による下フランジの変形が見られる。新規損傷であるものの、歩道橋のため現段階では耐力に大きな影響はなく、経過観察とする。
上法寺橋	ジョウホウ ^シ ハシ	根羽子沢清水出線	1987年	12.7	16.1	II	伸縮装置の後打ちコンクリートに経年劣化による剥離が見られる。全幅に見られ、車両の走行性が低下しているため、補修が必要である。
蛭野前田表線1号橋	ヒルノマエダ ^オ モテセンイチゴウ ^{キョウ}	蛭野前田表線	不明	11.5	5.5	II	主桁下面に側面からの伝い水および橋面水の浸透による遊離石灰を伴うひびわれ、うきが見られる。車両の载荷により今後も進行が予測され、主桁全体の支持機能が低下する可能性があるため、補修が必要である。
千本野1号橋	センボンノイチゴウ ^{ハシ}	番匠田千本野線	不明	3.7	5.2	II	地覆に欠損、舗装に穴ぼこ。橋台下部に洗い出しが見られる。舗装面の損傷は車両の走行に影響があるため補修が必要である。
境田北1号橋	サカイタ ^キ タイチゴウ ^{ハシ}	市道境田千本野線	不明	3.6	5.5	II	橋台にクラック及び一部断面欠損が見られる。クラックが拡大した場合、支持機能が低下するため、予防保全の観点から補修が必要である。
沼下1号橋	ヌマシタイチゴウ ^{ハシ}	市道沼下猪岡線	不明	3.7	7.1	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
八幡3号橋	ハチマンサンゴウ ^{ハシ}	市道卸団地中央線	不明	3.7	15.6	I	前回点検より進行はなく、支持機能に影響はない。
駅西1号橋	エキニシイチゴウ ^{ハシ}	市道駅西9号線	不明	3.8	6.3	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
駅西2号橋	エキニシニゴウ ^{ハシ}	市道駅西9号線	不明	3.6	6.4	I	転落防止柵に変形はあるものの、橋梁自体は健全で、支持機能に影響はない。

安田 2 号橋	ヤスタニゴウハシ	市道安田団地 2 号線	不明	3.5	5.4	Ⅱ	床板にクラックがある。橋台下部に洗い出しがある。前回点検と同様の損傷でいずれも軽微であり、経過観察とし、拡大するようであれば補修が必要。
横手沢橋	ヨコテザワハシ	市道兀山 2 号線	不明	3.5	5.8	Ⅱ	橋台にクラックがあり、滲出水も見られる。。前回点検と同様の損傷でいずれも軽微であり、経過観察とし、拡大するようであれば補修が必要。
亀田熊渕橋	カメダクマブチハシ	市道横手平鹿増田線	不明	3.6	8.5	Ⅰ	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
樋場主人堰橋	トヨバモントセキハシ	市道真人亀田線	1972年	3.9	4.8	Ⅱ	橋台下部に鉄筋露出あり。床板から滲出水あり。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
新堰橋	ニイセキハシ	市道平真線	不明	3.6	8.8	Ⅱ	A 1 橋台に洗い出し、A 2 橋台に剥離と洗堀が見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
民生橋	ミンセイハシ	市道縫殿中町線	1966年	3.0	3.6	Ⅱ	床板にジャンカ、鉄筋露出が見られる。橋台に洗い出しが見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
女学校裏橋	ジョガツコウウラハシ	市道女学校裏線	1966年	3.4	3.5	Ⅱ	床板にジャンカと欠損、橋台に洗い出しが見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
大宮川橋	オオミヤカワハシ	市道八木線	1969年	3.5	8.5	Ⅱ	後年度拡幅部分に異常はないが、従前からある部分は洗堀が見られる。
上町西橋	カミマチニシハシ	市道上町西線	1935年	3.1	3.7	Ⅱ	床板に剥離、鉄筋露出が見られる。橋台に洗い出しが見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
吉野鉾山橋	ヨシノコウサンハシ	市道吉野南線	1963年	3.2	3.5	Ⅱ	洗堀やクラック等、全体的に老朽化が進んでいる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
大沢橋	オオサワハシ	市道吉野中央線	1964年	3.0	4.1	Ⅱ	床板がたわんでいる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
電気堰橋	デンキセキハシ	市道吉野中央線	1955年	3.6	5.0	Ⅱ	橋台に欠損やクラックがある。洗い出し、洗堀も進んでいる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
菅生沢橋	スゴウサワハシ	市道菅生沢線	1951年	2.5	3.6	Ⅰ	橋台に軽微な洗い出しが見られるが、支持機能に影響はない。
尖岩橋	トガリイワハシ	市道羽場菅生線	1946年	2.9	4.2	Ⅱ	床板に浮き、剥離が見られ、橋台石積みに、はらみ出しが見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
湯ノ沢橋	ユノサワハシ	市道湯野沢線	1954年	2.6	4.9	Ⅰ	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。 ※架設年次以降に架け替えられている。
川登蟹沢線 1 号橋	カワノホリガニザワセンイチゴウキョウ	市道川登蟹沢線	—	3.2	5.6	—	前回の点検で「水路位置が変わり、橋の下は単なる窪地であった。」と報告されていた橋は撤去されていた。
黒川田ノ植線 1 号橋	クロカワタノウエセンイチゴウキョウ	市道黒川田ノ植線	不明	3.0	6.1	Ⅱ	橋台に洗い出しが見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
豊前中島線 1 号橋	ブセンナカシマセンイチゴウキョウ	市道豊前中島線	不明	3.7	11.0	Ⅰ	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
浅舞今宿線 1 号橋	アサマイマシユクセンイチゴウキョウ	市道浅舞今宿線	不明	3.5	7.0	Ⅰ	橋台に軽微な洗い出しが見られる。支持機能に影響はない。
樋ノ口柳持線 1 号橋	ヒノクチヤナギモチセンイチゴウキョウ	市道樋ノ口柳持線	不明	3.7	8.1	Ⅰ	地覆が欠けているものの、走行に影響はないため、経過観察とする。
１０７東線 1 号橋	ヒャクナナヒガシセンイチゴウキョウ	市道１０７東線	不明	2.8	6.5	Ⅱ	床板にたわみが見られる。他に、床板コンクリートの欠落、橋台の洗い出し。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
浅舞柳持線 2 号橋	アサマイヤナギモチセンニゴウキョウ	市道浅舞柳持線	不明	3.9	5.6	Ⅱ	床板にジャンカ、両橋台に洗い出し、A 1 橋台にクラックが見られる。。前回点検と同様の損傷でいずれも軽微であり、経過観察とし、拡大するようであれば補修が必要。
下醍醐柳持線 1 号橋	シタダイゴヤナギモチセンイチゴウキョウ	市道下醍醐柳持線	不明	3.0	4.5	Ⅱ	橋台に洗い出しが見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
１０７西線 1 号橋	ヒャクナナニシセンイチゴウキョウ	市道１０７西線	不明	3.5	11.4	Ⅰ	橋台に軽微な洗い出しが見られる。軽微であり、支持機能に影響はない。
スポ-ツセンタ-線 2 号橋	スポ-ツセンタ-センニゴウキョウ	市道スポ-ツセンタ-線	2018年	3.6	5.9	Ⅰ	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。 ※2018年に1,000×1,000のボックスカルバートに更新された。

下村線 1 号橋	シタムラセンイチゴウキョウ	市道下村線	不明	3.5	5.5	Ⅱ	床板に遊離石灰、橋台に洗い出しが見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
野中十文字境線 1 号橋	ノナカジュウモンジサカイセンイチゴウキョウ	市道野中十文字境線	不明	3.0	4.5	Ⅰ	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
新宮 3 号橋	シンミヤサンゴウバシ	市道新宮線	1948年	3.0	2.7	Ⅱ	A 1 橋台に洗い出しが見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
新宮 4 号橋	シンミヤヨンゴウバシ	市道新宮線	1948年	3.0	2.7	Ⅱ	床板にクラックがあり遊離石灰も見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
上法寺川橋	ジョウホウシガワバシ	市道長持西線	1966年	3.5	3.4	Ⅲ	通行の形跡がなく、雑草が繁茂している。橋台洗堀、クラック等あり。橋台洗堀が進行した場合、安全性を確保できないため、早期の対策が必要である。
岩瀬橋	イワセバシ	市道大沢岩ノ沢線	1971年	3.1	5.3	Ⅱ	床板に鉄筋露出、遊離石灰が見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
湯の沢川 5 号橋	ユノサワカワゴウキョウ	市道大沢南部 3 号線	2023年	2.5	3.9	Ⅰ	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。 ※国道107号バイパス化に伴い、2023年に架け替えられた。
湯の沢川 6 号橋	ユノサワカワロクゴウキョウ	市道大沢南 2 号線	1971年	3.7	3.4	—	ボックスカルバートに更新され、設置位置の関係で橋梁ではなく暗渠となる。
鳶ヶ沢橋	トビガサワバシ	市道鳶ヶ沢線	1971年	3.3	3.6	Ⅰ	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
鳶ヶ沢 2 号橋	トビガサワニゴウキョウ	市道鳶ヶ沢線	1971年	3.4	3.7	Ⅱ	床板に、うきや剥離、鉄筋露出が見られる。滲出水は軽微である。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
上船沼橋	カミフナヌマバシ	市道船沼東線	1969年	3.9	4.3	Ⅱ	床板に剥離が見られる。橋台と床板の間から滲出水が見られる。前回点検より進行しており、現段階で耐荷力が低下している可能性があるため、早期の補修が必要である。
通し下田橋	トオシゲタバシ	市道八卦南支線	1958年	3.9	2.5	Ⅱ	経年劣化による路面の摩耗、地覆に欠損、橋台にクラックなどが見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
下川原 5 号橋	シモカワラゴウキョウ	市道下川原北部線	1958年	3.6	4.0	Ⅱ	経年劣化により橋台と床板の隙間から滲出水が見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
下小路橋	シモコウジバシ	市道雄物川中央線	不明	3.5	6.0	Ⅱ	橋台にクラックが見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
鳥羽下橋	トバシタバシ	市道今宿中島線	1953年	3.1	5.1	Ⅱ	床板の劣化及び A 1 橋台にクラックが見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
下谷地 6 号橋	シタヤチロクゴウキョウ	市道下谷地中線	1954年	2.5	4.1	Ⅱ	床板に剥離、橋台に洗い出しが見られる。ガードパイプが破損している。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
石塚 2 号橋	イシヅカニゴウキョウ	市道新平川沼館線	1956年	3.3	5.0	Ⅱ	床板側面に欠損。A 1 橋台に欠損、鉄筋露出。両橋台とも洗い出し。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要である。
大巻 6 号橋	オオマキロクゴウキョウ	市道大巻線	1970年	2.5	5.1	Ⅰ	床版と橋台および拡幅部との遊間から滲み出しがあるものの、前回点検から進行はなく、支持機能に影響はない。
壇ノ尻橋	ダンノシリバシ	市道砂子田南部線	1971年	3.7	3.6	Ⅱ	路面が荒れ気味である。橋台に洗い出しが見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
蝦夷塚橋	エゾヅカバシ	市道雄物川東西線	1961年	3.1	6.1	Ⅱ	床板に剥離及び鉄筋露出が見られる。橋台に洗い出し、土砂堆積あり。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要。
造山蝦夷塚 2 号橋	ツクリヤマエゾヅカニゴウキョウ	市道造山南部 6 号線	1957年	3.0	2.4	Ⅱ	橋台下の土砂が流失している。床板に欠損箇所があり鉄筋が露出している。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
造山蝦夷塚 3 号橋	ツクリヤマエゾヅカサンゴウキョウ	市道造山南部 4 号線	1957年	3.6	2.5	Ⅱ	床板、橋台とも一部コンクリートの欠損があり鉄筋露出も見られた。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
東里西 2 号橋	トウサトニシニゴウキョウ	市道東里西 6 号線	1953年	3.6	1.8	Ⅱ	床板下側面で鉄筋が露出し錆びている。橋台に洗い出しが見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
東里西 4 号橋	トウサトニシヨンゴウキョウ	市道東里西部線	2020年	2.5	2.0	Ⅰ	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。 ※2020年に架け替えられた。
東里 2 号橋	トウサトニゴウキョウ	市道雄物川東部 3 号幹線	1962年	3.0	7.3	Ⅱ	床板下側にジャンカ、A 1 橋台にクラック、両橋台に洗い出しが見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。

大元 2 号橋	オオモトニコウキョウ	市道柏木三ツ屋桑木線	1969年	3.5	3.8	I	橋下の断面が非常に狭く、また、水も流れていない。次回点検まで、支持機能に影響はない。
後田表 2 号橋	ウシロダオモテニコウキョウ	市道上西野南部線	1961年	2.9	2.5	III	経年劣化により床板に鉄筋露出、橋台に洗い出しが見られる。前回点検より進行しており、現段階で耐力力が低下している可能性があるため、早期の補修が必要である。
白山前橋	ハクサンマエバシ	市道白山前線	1964年	3.8	11.9	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
中ノ又橋	ナカノマタバシ	市道善知鳥蓋支線	1965年	3.6	2.8	II	床板に鉄筋露出、A 1 橋台に洗い出しが見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
極楽寺 2 号橋	ゴクラクジニコウキョウ	市道釣瓶線	1968年	3.1	4.0	II	鉄筋露出やたわみなど、全体的に劣化が進んでいる。損傷が拡大した場合、支持機能が低下するため、変状を注視しなければならない。
極楽寺 4 号橋	ゴクラクジヨンゴウキョウ	市道釣瓶線	1968年	3.0	4.5	II	橋台に洗い出しが見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
粧坂橋	ショウサカバシ	市道猿田 3 号支線	2020年	3.6	3.7	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。 ※2020年に架け替えられた。
六盃橋	ロツパイバシ	市道阿美多地線	1971年	3.1	5.6	II	橋台に洗い出しが見られる。地覆欠損、鉄筋露出あり。損傷が拡大した場合、支持機能が低下するため、変状を注視しなければならない。
清水橋	シミスバシ	市道上野小勝田線	1971年	3.0	5.0	II	A 2 橋台にひび割れがみられる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
下田 3 号橋	シモダサンゴウキョウ	市道下田西水沢線	1962年	3.5	5.8	II	床板裏面に鉄筋露出が見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要。
三ヶ村堰 1 号橋	サガムラゼキイチゴウキョウ	市道女郎出袴形線	1971年	3.1	6.0	II	床板に鉄筋露出が見られる。橋台に洗い出し、滲出水が見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要。
東大中島橋	ヒガシオオナカジマバシ	市道タモノ木東線	1972年	3.6	4.4	II	床板に鉄筋露出が見られる。床板と橋台の間から滲出水が見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
泥毛橋	ドロケバシ	市道高畑東藤野線	1971年	3.1	4.2	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。 ※架設年次以降に架け替えられている。
新島 1 号橋	シンジマイチゴウキョウ	市道前村後線	1972年	3.0	4.2	II	床板に鉄筋露出が見られる。橋台にジャンカ、洗い出しが見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
新島 2 号橋	シンジマニコウキョウ	市道高畑東藤野線	1971年	3.0	4.2	II	床板に鉄筋露出、橋台に洗い出し、土砂堆積が見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
新島 3 号橋	シンジマサンゴウキョウ	市道一本柳線	1971年	3.0	4.3	II	床板に鉄筋露出、橋台に洗い出しが見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低い が、変状や拡大するようであれば補修が必要。
東二ツ森 2 号橋	ヒガシフタツモリニコウキョウ	市道二ツ森中島線	1964年	3.6	4.2	II	床板に鉄筋露出が見られる。橋台に滲出水が見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低い が、変状や拡大するようであれば補修が必要。
東二ツ森 4 号橋	ヒガシフタツモリヨンゴウキョウ	市道二ツ森東線	1971年	3.0	4.2	II	床板に鉄筋露出、橋台に洗い出しが見られる。地覆も鉄筋が露出している。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低い が、変状や拡大するようであれば補修が必要。
開一の口橋	ヒラキイチノクチバシ	市道開一の口線	1971年	3.2	5.9	II	床板に鉄筋露出が、橋台に洗い出しが見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要。
苗代下橋	ナワシロシタバシ	市道苗代下線	1964年	2.7	2.7	II	床板にクラック及び鉄筋露出が見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低い が、変状や拡大するようであれば補修が必要。
南神成橋	ミナミカンナリバシ	市道東神成線	1964年	3.0	6.0	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。 ※架設年次以降に架け替えられている。
中村真角線 2 号橋	ナカムラマツカクセンニコウキョウ	市道中村真角線	不明	3.6	5.5	II	ボックスとボックスの隙間から滲出水が見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
木下中村線 3 号橋	キシタナカムラセンサンゴウキョウ	市道木下中村線	不明	3.6	7.4	II	ボックス下部に軽微な洗い出しと、1 か所錆汁が出ている箇所がある。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
樽川橋	タルカワバシ	市道三重植田線	不明	3.7	5.6	II	床板にコンクリート剥離及び鉄筋露出、橋台に洗堀が見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要。
中の村能平喜線 3 号橋	ナカノムラノヒラキセンサンゴウキョウ	市道中の村能平喜線	不明	3.8	8.1	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。

御休線 1 号橋	オヤスミセンイチゴウキョウ	市道御休線	不明	3.5	6.0	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
西下中の村線 3 号橋	ニシシタナカムラセンサンゴウキョウ	市道西下中の村線	不明	3.7	6.1	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
清水川橋	シミスカワバシ	市道三重植田線	不明	3.9	10.0	II	床板に剥離、鉄筋露出が見られ、橋台にも剥離及び洗い出しが見られる。損傷が進行した場合、支持機能が低下するため、予防保全の観点から補修が必要である。
西下中の村線 1 号橋	ニシシタナカムラセンイチゴウキョウ	市道西下中の村線	不明	3.5	12.2	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
田村堰 8 号橋	タムラセキハチゴウキョウ	市道下高口上田村線	1971年	3.8	6.2	II	床板にジャンカ及び橋台との接点部分が欠損、鉄筋露出が見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
門ノ目堰 2 号橋	カドメセキニゴウキョウ	市道折橋四津屋線	1967年	3.0	9.2	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。 ※架設年次以降に架け替えられている。
門ノ目堰 5 号橋	カドメセキゴゴウキョウ	市道樋脇一ノ関線	1971年	2.5	3.2	II	床板に鉄筋露出が見られる。橋台と床板の間から滲出水が見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
門ノ目堰 6 号橋	カドメセキロクゴウキョウ	市道上桜森一ノ関線	1971年	3.3	4.2	II	床板にジャンカ、橋台に滲出水が見られる。橋台に欠損がある。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
門ノ目堰 7 号橋	カドメセキナナゴウキョウ	市道下高口上田村線	1971年	2.8	6.3	II	床板に剥離及び鉄筋露出が見られる。橋台から滲出水が見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要。
江原小橋	エハラコバシ	市道根田谷地阿気桜森線	1961年	3.3	8.5	I	表面にジャンカが見られるものの橋梁断面が非常に小さいため、現段階では支持機能に影響はない。
桜森橋	サクラモリバシ	市道根田谷地阿気桜森線	1946年	3.0	6.9	II	橋台下部に洗い出しが見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要。
石持橋	イシモチバシ	市道根田谷地阿気桜森線	1961年	2.5	6.0	I	床板の隙間からの漏水や橋台下に土砂堆積など見られるが、橋梁本体は健全で、支持機能に影響はない。
両頭川 2 号橋	リョウスガワニゴウキョウ	市道土井尻線	1971年	3.9	6.0	I	橋台に軽微なジャンカが見受けられるが、支持機能に影響はなく、また、次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いため、経過観察とする。
樋脇橋	トヨワキバシ	市道根田谷地阿気桜森線	不明	3.6	8.8	II	床板に剥離、鉄筋露出、滲出水がみられ、橋台に洗堀が見られる。前回点検と同様の損傷であり、著しい進行は見られないため経過観察とし、変状や拡大するようであれば補修が必要。
宮田堰 3 号橋	ミヤタセキサンゴウキョウ	市道新城上桜森線	1971年	2.7	10.5	II	橋台に洗い出しが見られる。舗装面の剥がれ、地覆一部欠損も見られる。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
上田村西橋	カミタムラニシバシ	市道上田村西 2 号線	1971年	3.7	4.6	II	床板に鉄筋露出が見られる。橋台に洗い出しが見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
狐塚堰橋	キツネヅカセキバシ	市道一ノ関東線	1971年	2.6	4.0	I	橋台のほかに水路壁2列、合わせて4列で床版を支えていて支持機能は十分保持している。
上田村上堰 1 号橋	カミタムラウワセキイチゴウキョウ	市道下高口上田村線	1971年	3.0	6.2	II	橋台にジャンカ、滲出水が見られ、フチに欠損がある。地覆に欠損がある。現段階では支持機能に影響はないが、変状や拡大するようであれば補修が必要であり、経過を観察する。
惣助堰橋	ソウスケセキバシ	市道下高口上田村線	1971年	3.3	6.2	II	床板に鉄筋露出が見られる。橋台から滲出水が見られ、一部欠損がある。床版の鉄筋露出が進行した場合、支持機能が低下するため、変状を注視しなければならない。
惣助堰 5 号橋	ソウスケセキゴゴウキョウ	市道八柏西 1 号線	1971年	3.8	4.2	II	床板にジャンカ及び鉄筋露出が見られる。橋台に滲出水が見られる。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
根田谷地堰 4 号橋	コンダヤチセキヨンゴウキョウ	市道八柏東 1 号線	1971年	3.7	3.6	II	床板にジャンカ、橋台に滲出水が見られる。地覆に欠損がある。交通量は少なく次回点検までに支持機能が低下する可能性は低いが、変状や拡大するようであれば補修が必要。
上桧沢橋	カミヒザワバシ	市道武道線	2018年	2.3	3.0	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
東又 1 号橋	ヒガシマタイチゴウキョウ	市道東又線	不明	3.7	4.0	I	上部構造、下部構造、支承部とも健全である。
赤倉沢橋	アカクラザワバシ	市道赤倉線	不明	11.5	1.9	III	木製床版に経年劣化による腐朽、抜け落ちが見られる。山間地の農地で歩行者の利用は少ないものの、第三者被害防止の対策が必要である。